

外国語教育研究センター

1 理念・目的

外国語教育研究センターは、旧語学視聴覚教育研究室を改組し、平成 15 (2003) 年 10 月に発足した。

センター特設科目を通じた先端的教育活動を実施するだけでなく、研究を通じて、慶應義塾内のすべての学校・大学学部の外国語教育の充実に資する支援を目的としている。組織を構成する所員は大学教員のみならず、小・中・高等学校の教員にも及び、小学校から大学院にいたる外国語教育を対象に研究・教育活動を行っている。

本センターの活動は<研究>・<教育>・<支援>を3つの柱としている。改組に当たっての最大の目的は、外国語教育に関する研究機能の強化にあった。研究活動が活発に行われてこそ初めてその成果を取り入れた教育・支援活動も十全に機能すると考えたからである。現在では、本センター設置の特設科目を通じて大学各学部の外国語教育の補完的役割を果たすとともに、独自の研究活動を通じて、各学部・一貫教育校での実践における教育効果を拡大するための支援活動を行っている。また、その研究活動においては、慶應義塾全体の外国語教育に対して将来的指針を示すという極めて重要な使命も帯びている。

2 教育研究組織

本センターは、所長 1 名、副所長 4 名の他、多くの所員および研究員で構成されている。所員は上記目的達成のために必要な職務を行うこととし、専任所員（現在、有期の専任教員 1 名）、兼担所員（30 名）、兼任所員（1 名）となっている。平成 24 (2012) 年 3 月、本センター規程を改正し、所長の指示に従い研究活動に従事する研究員（兼担研究員、兼任研究員）の規定を新たに設けた。所員及び研究員の任免については、いずれも運営委員会の推薦に基づき、協議会の承認を経て、塾長が任命することとしている。

また、本センターには、研究推進、学事推進、事業推進、一貫校との連携推進の 4 つの委員会があり、4 名の副所長がそれぞれ各委員会を担当し、上記目的遂行に向け活動している。

4 教育内容・方法・成果

4 - 1 教育目標、教育課程の編成・実施方針

(1)教育目標

本センターの特設科目は、大学各学部で行われている外国語教育を補完するためのスキル別授業、学部では担保することのできない英語・中国語の超上級授業、並びに英語力が未だ充分に開発されていない学生向けの授業から成り、学部の外国語教育と有機的な関係を持ちつつ、21 世紀に必要とされる高度な外国語能力を養成することを目標としている。

(2)教育課程の編成・実施方針

- ・本センター設置の特設科目の担当者は、できるだけ学部の専任教員を配するよう努力している。これにより、学部と同等の授業のクオリティを担保し、卒業に必要な単位あるいは必修単位との振替が可能となっている。

- ・本センターの特設科目においては、マルチメディア教育が眼目となっており、Computer Assisted Language Learning に対応した教室(以下 CALL 教室)や Language Laboratory 教室(以下 LL 教室)といった施設を最大限に利用している。現在、CALL 教室 4 室と LL 教室 2 室が稼働し、パソコン、インターネット、衛星放送といったメディアを活用した授業を行っている。
- ・英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、イタリア語および諸国語の分野に分け、語種責任者が任命されている。語種責任者は各語種のカリキュラムを検討し、適切な担当教員を配置することが主要な職務であるが、その他にも、テキスト・参考図書の選定(購入)などを通じて、授業の効果を最大限引き出すよう配慮している。

4 - 2 教育課程・教育内容

(1)教育課程

各学部の外国語教育を補完するため、学部教育でカバーしきれない科目や各言語のスキルに特化した科目などを「センター特設科目」として設置し、学部生・大学院生の言語能力の向上に貢献している。平成 24 年度は、日吉キャンパスで 8 言語 40 講座、三田キャンパスで 8 言語 32 講座を開講した。

[日吉設置科目]

科 目 名	担当講師名	設置学期	定員
英語			
英語最上級 アドバンスト英語(a) (Education & the Mass Media as tools in forming public opinion [C][P])	ヘンク, ニコラス	春	25
英語最上級 アドバンスト英語(b) (Education & the Mass Media as tools in forming public opinion [C][P])		秋	
英語最上級 アドバンスト英語(a) (Language, Culture & Society)	シェイ, デビット P	春	25
英語最上級 アドバンスト英語(b) (Language, Culture & Society)		秋	
英語最上級 アドバンスト英語(a) (The Jazz Age & Beyond: an American Revolution)	バティアー, ロジャー M	春	25
英語最上級 アドバンスト英語(b) (The Jazz Age & Beyond: an American Revolution)		秋	
英語最上級 アドバンスト英語(a) (Ultra Advanced English: The Art of Debate)	スネル, ウィリアム J	春	25
英語最上級 アドバンスト英語(b) (Ultra Advanced English: The Art of Debate)		秋	
英語最上級 アドバンスト英語(a) (An Outline of Globalization)	ハンリー, マシュー M	春	25
英語最上級 アドバンスト英語(b) (An Outline of Globalization)		秋	
英語異文化トレーニング(a) (Exploring the Way Culture Influences Our Lives)	吉田 友子	春	25
英語異文化トレーニング(b) (Exploring the Way Culture Influences Our Lives)		秋	
英語異文化トレーニング(I) (多文化主義と英語表現)	鈴木 雅子	春	30
英語異文化トレーニング(II) (多文化主義と英語表現)		秋	
英語ドラマ(a) (身体をツールに言葉を学ぼう)	横山 千晶	春	15
英語ドラマ(b) (身体をツールに言葉を学ぼう)		秋	
英語翻訳(a)	武藤 浩史	春	20
英語翻訳(b)		秋	
英語初級(a) (リスニングと発音練習の基礎体力をつける、リーディングをやり直す)	横山 千晶	春	30
英語初級(b) (リスニング、リーディング、リサーチの体力増強をはかる)		秋	
英語聴解(a)	迫村 純男	春	20
英語聴解(b)		秋	
英語留学準備(I) (Academic Writing / Presentation for Studying Abroad)	バトラー, アン D	春	20
英語留学準備(II) (Academic Writing / Presentation for Studying Abroad)		秋	
英語アカデミック・ライティング(I) (Writing an Academic Paper in English)	和田 朋子	春	25
英語アカデミック・ライティング(II) (Writing an Academic Paper in English)		秋	
英語オーラル・プレゼンテーション(I)(初級) (Oral Presentation)	ブルーカ, デイビッド	春	30
英語オーラル・プレゼンテーション(II)(初級) (Oral Presentation)		秋	
英語スピーチとディベート(I) (Speaking for the Better World)	鈴木 雅子	春	20
英語スピーチとディベート(II) (Speaking for the Better World)		秋	

ドイツ語				
ドイツ語表現技法1(a) (初級発音・聴解練習)	境 一三	春	25	
ドイツ語表現技法1(b) (初級発音・聴解練習)		秋		
ドイツ語表現技法2(a) (ドイツ語多読 ドイツ語で読書をし、本の面白さを表現しよう)	吉村 創	春	25	
ドイツ語表現技法2(b) (ドイツ語多読 ドイツ語で読書をし、本の面白さを表現しよう)		秋		
ドイツ語表現技法3(a) (初級文章表現法)	ゲスナー, ゲジーネ	春	25	
ドイツ語表現技法3(b) (初級文章表現法)		秋		
フランス語				
フランス語表現技法1(a) (発音と会話の基礎)	ヴァンシンテヤン・ディオ, カトリータ	春	20	
フランス語表現技法1(b) (発音と会話の基礎)		秋		
フランス語表現技法1(a) (発音と会話の基礎)	デュレンベルジェ, ヴァンサン	春	20	
フランス語表現技法1(b) (発音と会話の基礎)		秋		
フランス語表現技法2(I) (異文化間アプローチ)	前島 アンヌ・マリー	春	20	
フランス語表現技法2(II) (異文化間アプローチ)		秋		
ロシア語				
ロシア語聴解(a) (ロシア語で聴いてロシア語で話してみよう)	中澤 朋子	春	15	
ロシア語聴解(b) (ロシア語で聴いてロシア語で話してみよう)		秋		
ロシア語表現技法1(I) (ロシア語で演じてみよう: まずは簡単なスキットから)	熊野谷 葉子	春	15	
ロシア語表現技法1(II) (ロシア語で演じてみよう: 本格的な芝居に挑戦!)		秋		
中国語				
中国語表現技法1(I)(上級) (中国語文作法(日本語を中国語に翻訳すること))	呉 敏	春	15	
中国語表現技法1(II)(上級) (中国語文作法(日本語を中国語に翻訳すること))		秋		
中国文翻訳(I)(最上級) (中国語小説の翻訳)	橋本 陽介	春	15	
中国文翻訳(II)(最上級) (中国語小説の翻訳)		秋		
スペイン語				
スペイン語表現技法1(a)(初級) (Curso de conversación en español)	モジャーノ, フアン・カルロス	春	25	
スペイン語表現技法1(b)(初級) (Curso de conversación en español)		秋		
スペイン語表現技法2(a)(中級)	三浦 麻衣子	春	25	
スペイン語表現技法2(b)(中級)		秋		
アラビア語				
アラビア語(a)	柳谷 あゆみ	春	30	
アラビア語(b)		秋		
アラビア語(a)	柳谷 あゆみ	春	30	
アラビア語(b)		秋		
イタリア語				
イタリア語表現技法1(I) (生きたコミュニケーション(Comunicazione attiva))	ジェズアート, マリーア=カティア	春	25	
イタリア語表現技法1(II) (生きたコミュニケーション(Comunicazione attiva))	未定(イタリア政府派遣講師)	秋		

[三田設置科目]

科目名	担当講師名	設置学期	定員
英語			
英語最上級 アドバンスト英語(a) (Discovering the Importance of Culture in Communication)	横川 真理子	春	25
英語最上級 アドバンスト英語(b) (Discovering the Importance of Culture in Communication)		秋	
英語翻訳(a) (Lost in Translation)	アーマー, アンドルー J	春	15
英語翻訳(b) (Lost in Translation)		秋	
英語留学準備(I) (English for Studying Abroad)	ブルーカ, デイビッド	春	30
英語留学準備(II) (English for Studying Abroad)		秋	
英語経済・金融(I) (頻出パターンで学ぶ経済英語の基本用例)	日向 清人	春	30
英語経済・金融(II) (頻出パターンで学ぶ金融と会計の英語)		秋	
英語法律・法務(I) (208パターンでおぼえる会社と法務関係の英語)	日向 清人	春	30
英語法律・法務(II) (208パターンで学ぶ契約書の英語)		秋	
英語アカデミック・ライティング(I) (Writing an Academic Paper in English)	和田 朋子	春	25
英語アカデミック・ライティング(II) (Writing an Academic Paper in English)		秋	
英語オーラル・プレゼンテーション(I)(初級) (Oral Presentation)	ブルーカ, デイビッド	春	30
英語オーラル・プレゼンテーション(II)(初級) (Oral Presentation)		秋	
ドイツ語			
ドイツ語表現技法4(a) (中級ドイツ語チューンアップ)	クナウフ, ハンス J	春	25
ドイツ語表現技法4(b) (中級ドイツ語チューンアップ)		秋	
ドイツ語表現技法5(a) (「読む」ことを通じてドイツ語の表現について考える)	桑田 文	春	25
ドイツ語表現技法5(b) (「読む」ことを通じてドイツ語の表現について考える)		秋	
フランス語			
フランス語表現技法3(I) (DEL F A1 対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル A	春	20
フランス語表現技法3(II) (DEL F A2 対応クラス)		秋	
フランス語表現技法4(I) (DEL F B1 対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル A	春	20
フランス語表現技法4(II) (DEL F B2 対応クラス)		秋	
フランス語表現技法5(I) (DAL F C1 対応クラス)	ペリセロ, クリスティアン・アンドレ	春	20
フランス語表現技法5(II) (DAL F C1 対応クラス)		秋	
ロシア語			
ロシア語表現技法2(I) (映画やアニメでロシア語)	山田 徹也	春	15
ロシア語表現技法2(II) (映画やアニメでロシア語)		秋	
中国語			
中国語聴解2(I)(最上級) (時事中国語)	車 麗	春	15
中国語聴解2(II)(最上級) (時事中国語)		秋	
中国語表現技法2(I)(最上級) (読解と翻訳)	蔣 文明	春	15
中国語表現技法2(II)(最上級) (読解と翻訳)		秋	
スペイン語			
スペイン語表現技法3(I)(上級) (スペイン語のさらなる向上とその文化的・社会的背景に対するより深い理解)	安藤 万奈	春	25
スペイン語表現技法3(II)(上級) (スペイン語のさらなる向上とその文化的・社会的背景に対するより深い理解)		秋	
インドネシア語			
インドネシア語ベーシック速習1(a)	野村 亨 ベトルス アリ サントーン	春	30
インドネシア語ベーシック速習1(b)		秋	
インドネシア語ベーシック速習2(a)	野村 亨 ベトルス アリ サントーン	春	30
インドネシア語ベーシック速習2(b)		秋	
イタリア語			
イタリア語表現技法2(I) (作文練習(Composizione))	ジェズアート, マリーア=カティア	春	25
イタリア語表現技法2(II) (作文練習(Composizione))	未定(イタリア政府派遣講師)	秋	

また、日吉キャンパスの文・経・法・商・理工 5 学部設置の外国語科目のうち、他学部生・大学院生に開放可能な科目を「オープン科目」と称してセンターに併設し、学生の便宜をはかっている。平成 24 (2012) 年度は 8 言語 164 科目を開講した。

4 - 3 教育方法

(1)教育方法の改善

特設科目に関して、各学期末に学生に対して授業評価アンケートを実施している。その集計結果を各教員にフィードバックし、学生のニーズによりの確に答えられるよう、また教員の専門性がよりよく活かされるよう配慮している。

6 学生支援

(1)修学支援

- ・学生の自主学習教材として、e-Learning 英語学習システム「ALC NetAcademy 2」を導入し、学部生・大学院生に提供している。
- ・意欲のある慶應義塾の高等学校生・学部生・大学院生に英語による小論文作成を奨励することを目的として、毎年アカデミック・ライティング・コンテストを実施している。また、当センターではこのコンテストに先立ち、英語による小論文の作成技法習得を目的とするワークショップを年 2 回開催している。学生の専攻の枠を超えて、英文論文の作成技法への関心を大いに高めている。
- ・英語能力の自己把握と向上を目的として、TOEIC-IP を年 2 回本センターが主催し、学内の教室を試験場として実施している。

7 教育研究等環境

(1)教室等の量的・質的充実度、稼動状況および将来計画

従来から LL 教室と CALL 教室を設置し、外国語を効果的に学習できるように運用してきたが、導入機器の老朽化のため、平成 21 (2009) 年度より既存の CALL 教室の新システムへの切替と LL 教室の CALL 教室への改修工事を開始した。当初、LL 教室 4 室・CALL 教室 2 室であったが、平成 24 (2012) 年度現在、LL 教室 2 室・CALL 教室 4 室となった。

新 CALL 教室では、飛躍的に発達した ICT に対応したシステムを導入し、デジタルコンテンツを利用したり、インターネットを介して世界中とコミュニケーションするなど、「聞く」「話す」「読む」「書く」のスキルをより効果的に習得する環境を整えた。

(2)学生・教員に対する情報機器の利用環境・機器配備状況

学生に対しては、語学学習のための自習スペースとして日吉キャンパス第 3 校舎に外国語ラウンジを提供している。外国語ラウンジでは、大型液晶テレビや DVD/VHS のダブルデッキ、パソコン、カセットデッキを設置し、学生の自習や授業課題の映像・

音声の視聴学習ができるように対応している。

教員に対しては、デジタル教材作成のための教材作成パソコン、通常の DVD/VHS デッキの他、世界対応の DVD/VHS デッキやカセットデッキ、CD/MD プレーヤー、スキャナーなどを用意している。その他、授業用のノートパソコンや映像・音声資料の各種再生機の貸し出しを行っている。

8 社会連携・社会貢献

・社会人向け教育プログラム・公開講座の開設状況

外国語とその文化の理解を深めるため、学内外の有識者による講演会を年 3～4 回開催している。ホームページにより広報をすることにより、学内の学生のみならず一般社会人も多数受講しており、地域コミュニティへの貢献を実現している。また、本センターが支援している慶應義塾外国語学校設置講座は一般社会人に開放されている。

・教育研究の成果の発表状況

塾内の教職員・研究員を対象に研究論文を募集し、『慶應義塾 外国語教育研究』(査読あり)を年 1 回発行している。

・研究成果の社会への還元

e-Learning システム、およびコンテンツ(教材)の開発に関して、情報・エレクトロニクス関連企業並びに出版社との連携をはかっている。